

MSC メラビア・地中海クルーズ(その 1)

事務局長 池田良穂

クルーズ 6 日目の寄港地はスペインのバルセロナ港でした。

「MSC メラビア」が入港する前に、港内には NCL の「ノルウェー・スピリット」がすでに停泊しており、後ろには「コスタ・フォーチュン」が続いて入港してきました。

「MSC メラビア」は、橋の手前の一番奥の画で回頭して「ノルウェー・スピリット」の後ろに出船状態で着岸しました。この着岸操船中は小型のタグボート 1 隻がまわりの監視をしているようでした。

34 年前の地中海クルーズで乗船したソ連客船「アゼルバイジャン」は、ロープウェイの鉄塔のたつ客船ターミナルに停泊しましたが、欧州に現代クルーズが導入されてからはクルーズ客船の寄港数が急増して、港の外側に長く伸びる防波堤の内側に次々とクルーズ客船ターミナルが整備され、橋で連結されました。各ターミナルからはアクセスバスで元の客船ターミナル(現在は貿易センタービルと呼ばれている)まで有料で送迎をしていました。防波堤側の岸壁からは橋を使って徒歩でも行き来できるようになっていました。

10 時頃に下船して、アクセスバスで貿易センタービルまで移動し、そこから 2 階建ての循環観光バスに乗車しました。2 階はオープンデッキでした。市内を回って 1 時間ほどたつたころ、港を見下ろす丘の上の駅で下車。さらに城までロープウェイで登って、港の写真撮影をしました。近くに見晴らしの良いレストランがあったので、スペインの名物料理パエリアで昼食。不思議に昼は食欲がありますが、夜は食欲が減退してしまうのは、時差のせいなのか、料理の味付けのせいなのかはわかりませんでした。・・・。

17 時の出港時には、たくさんのフェリーの入港ラッシュとなりました。この日は、21 時半からのシルク・ドゥ・ソレイユの夕食付公演を予約していたので、出港時にはゆっくりとシップウォッチングを堪能することができました。



① バルセロナ港の沖合で朝日の中に浮かぶフェリー「ボルカン・ディ・ティナマー」の映像です。



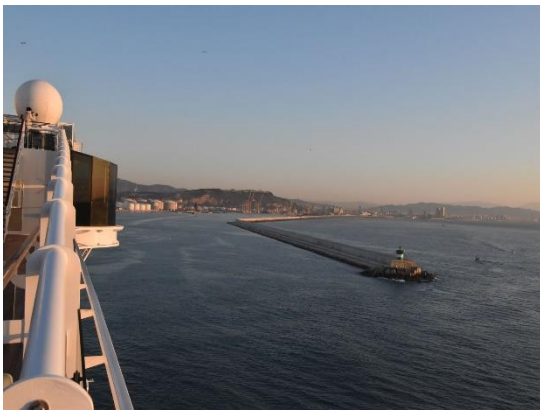
② バルセロナ港口では MSC の巨大コンテナ船と反航しました。クルーズだけでなくコンテナ船の分野でも拡大路線をとり続けている MSC は巨大海運会社に成長しています。



③ 「コスタ・フォーチュナ」が後ろに続いていました。



⑥ 「MSC メラビリア」の船尾デッキから見た、防波堤と陸地を結ぶ橋です。背景に見える鉄塔がケーブルカーのタワーで、その右の建物が貿易センタービルで今も客船ターミナルとしても使われています。



④ バルセロナ港へは西の関門から入港しました。



⑦ 橋を通過するアクセスバスの窓から見たクルーズターミナルに停泊する船の光景です。



⑤ NCLの「ノルウェーجان・スピリット」が先に着岸していました。「MS メラビリア」はさらに奥に進んで、回頭して出船状態で着岸しました。



⑧ 「ボルカン・ディ・ティナマー」です。スペインのフェリー界の最大手のアルマス社の運航船です。



⑨ 丘の上の城から眺めたクルーズターミナルに停泊する「MSC メラピリア」と「ノルウェー・スピリット」です。手前の四角い水域で「MSC メラピリア」は回頭しました。



⑫ RoPax「テナシア」は、西の関門からの入港だったので、少し沖合を通過していきました。



⑩ 夕方、出港すると、マヨルカ島からの大型フェリー「マルティン・i・ソーラー」が入港してきました。



⑬ RoPax「ロサリンド・フランクリン」の入港です。後方に見えるのはイタリア～フランス～スペインの沿岸航路の RoPax「クルーズ・アウソニア」です。



⑪ 続いてトラスメディタリニア社の RoPax「シテグッド・ディ・バルマ」が入港してきました。



⑭ 最後に「クルーズ・アウソニア」と反航しました。船型からすると元スーパーファースト姉妹の中の1隻のようです。